

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成22年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成22年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 22 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間

平成 22 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 22 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	34
建 設 業	25
小 売 業	44
サービス業	47
合 計	150

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 22 年 4 月～6 月)の調査結果では、産業全体の業況D I が、前期より 4.7 ポイント改善し△47.5 (前期△52.2) となった。

産業全体の主要D I は、売上額が△49.7(前期△54.8)、採算が△52.0(前期△58.2)、資金繰りは△42.5 (前期△53.1) といずれも好転した。

産業全体としては緩やかな回復基調を示しており、特に製造業は売上(加工)額D I が 44.3 ポイント好転し、景況感は土砂降り状態から大きく改善した。

しかしながら、建設業の完成工事額D I は 32.0 ポイント下降し、景況感を大きく悪化させ、小売業・サービス業についても売上D I は大きな変動は見られないが、全国のD I と比較すると 8～20 ポイントの劣位にあり、格差が依然として解消されず、回復が遅れている。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事)D I は、製造業 44.3 ポイント好転、建設業 32.0 ポイント悪化、小売業 0.9 ポイント悪化、サービス業 2.8 ポイント好転となり、特に製造業、建設業の変動幅が大きかった。

② 採算の状況

採算D I は、製造業 29.4 ポイント好転、小売業 7.9 ポイント悪化、サービス業 9.9 ポイント好転となり、建設業は完成工事額D I の悪化幅が 32.0 ポイントと大きかったが採算D I への影響は限定的であり 8.0 ポイントの悪化であった。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、小売業は前回と同率であったが、その他は製造業、建設業、サービス業と前回よりも実施比率が上がっており、特にサービス業は 21.3%と高く、全体的に生産設備など緩やかではあるが前向きな投資も行われている。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

全国はすべての業種において売上額（完成工事額）D I が好転したが、東北の建設業及び宮城の建設業と小売業はD I を悪化させた。また、宮城のD I は製造業を除く業種が全国から10～20ポイント台下回っており、回復の足取りが重い。

表一1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 33.6	△ 14.3	△ 36.5	△ 15.3	△ 53.0	△ 8.7
建 設 業	△ 38.2	△ 33.5	△ 38.3	△ 40.2	△ 28.0	△ 60.0
小 売 業	△ 54.3	△ 48.1	△ 56.6	△ 50.0	△ 62.8	△ 63.7
サービス業	△ 47.7	△ 40.8	△ 51.1	△ 47.7	△ 63.7	△ 60.9

② 採 算

全国、東北はすべての業種において採算D I が好転したが、宮城の建設業と小売業はD I を悪化させた。また宮城のD I と全国のD I とを比較すると、小売業が24.8ポイント、製造業が11.9ポイント劣位にあるが、建設業、サービス業は10ポイント未満の乖離幅となった。

表一2 採算の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 38.9	△ 26.3	△ 43.3	△ 28.5	△ 67.6	△ 38.2
建 設 業	△ 47.4	△ 40.6	△ 44.8	△ 41.4	△ 36.0	△ 44.0
小 売 業	△ 50.9	△ 47.3	△ 57.2	△ 50.5	△ 64.2	△ 72.1
サービス業	△ 46.6	△ 40.8	△ 50.1	△ 42.7	△ 57.8	△ 47.9

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額の来期見通しは、D I が建設業は 22.6 ポイント、サービス業が 1.0 ポイント好転すると予測され、製造業は 19.4 ポイント、小売業は 3.7 ポイント悪化すると予測される結果となった。

また、建設業、製造業は今期も前期との変動幅が大きく、予測値も振幅が大きいことから短期的に不安定な推移状況となっている。

採算の来期見通しについては各業種ともに D I が好転に向かうと予測された。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額は、表-3 の通り、製造業と建設業は全国の D I との差がプラス値とマイナス値の間を波動しており、格差が収斂していく可能性を見せているが、小売業とサービス業は全国の D I との格差が若干悪化していく動きとなった。

一方、採算は表-4 の通り、サービス業の乖離が若干拡大するが、その他業種は乖離が縮小すると予測された。

表-3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 14.3	△ 13.7	△ 8.7	△ 28.1
建 設 業	△ 33.5	△ 39.5	△ 60.0	△ 37.4
小 売 業	△ 48.1	△ 49.1	△ 63.7	△ 67.4
サービス業	△ 40.8	△ 36.0	△ 60.9	△ 59.9

表-4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 26.3	△ 21.2	△ 38.2	△ 32.3
建 設 業	△ 40.6	△ 40.9	△ 44.0	△ 37.5
小 売 業	△ 47.3	△ 45.7	△ 72.1	△ 65.1
サービス業	△ 40.8	△ 36.0	△ 47.9	△ 47.8

2. 県下産業別の景況

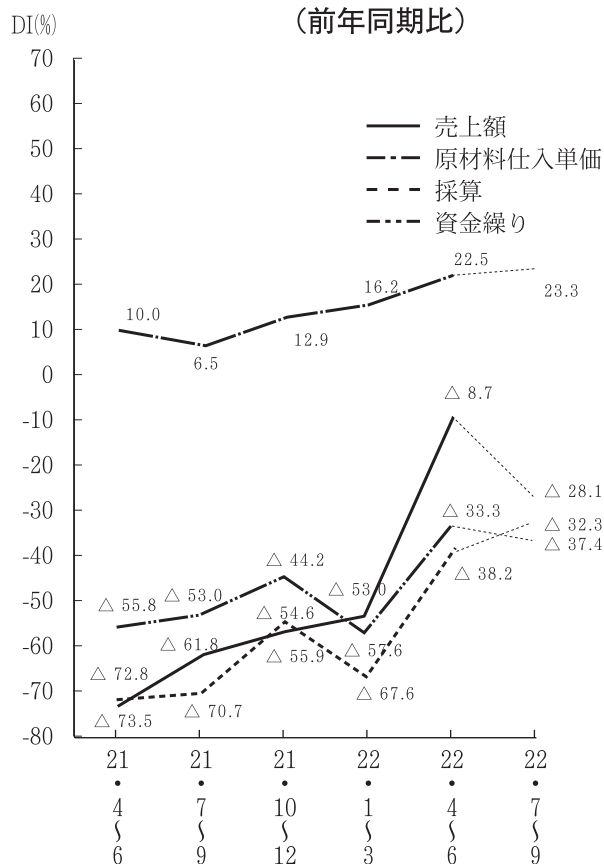
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは、前期比44.3ポイント、採算DIは29.4ポイント、資金繰りDIは24.3ポイントといずれも好転し、主要項目は大幅に改善され景況の回復感がみられた。

経営上の問題点は「需要の停滞」が前回同様に第一位であるが、前回55.2ポイントから今回46.9ポイントと若干減少傾向をみせ、新規設備投資も、生産設備への投資を中心に実施企業割合が17.6%(前回11.8%)に増加した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



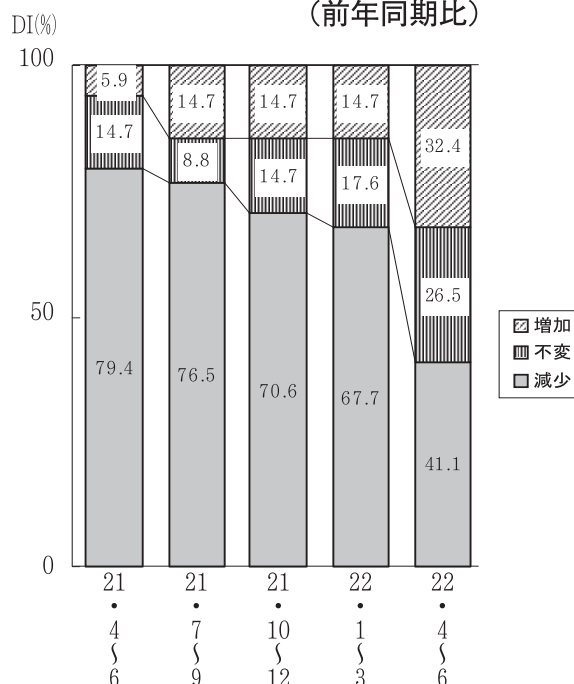
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の32.4%(前期14.7)で前期比17.7ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業も41.1%(前期67.7%)と前期比26.6ポイント減少した。

結果として売上額DIは△8.7(前期△53.0)となり前期比44.3ポイントと大幅に好転した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

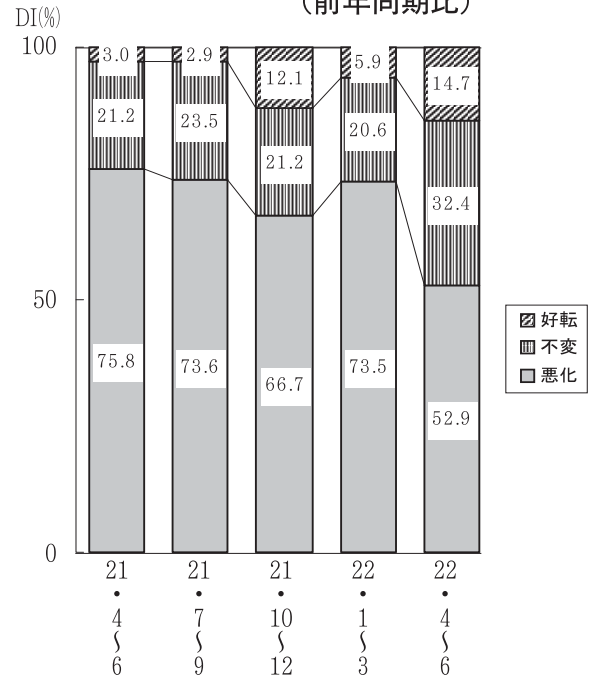


(b) 採 算

前年同期比で「上昇・好転」と回答した企業は全体の14.7%(前回5.9%)で8.8ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は52.9%(前回73.5%)で20.6ポイント減少した。

その結果、採算DIは△38.2(前期△67.6)となり29.4ポイント好転した。

**図1-3 採算の状況
(前年同期比)**



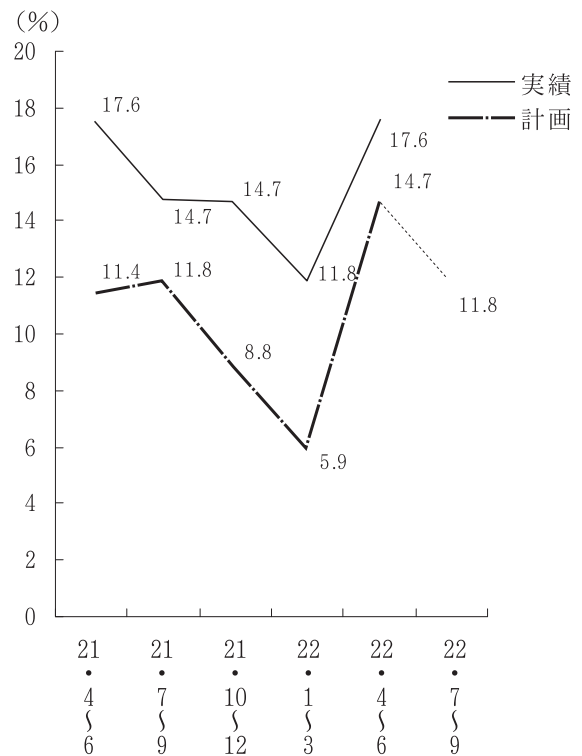
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の17.6%(前期11.8%)に増加した。

その設備内容は、生産設備、車両運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の11.8%で、その設備内容は、生産設備、車両運搬具、付帯施設、土地、工場建物、OA機器、その他と多岐にわたっている。

図1-4 設備投資の状況

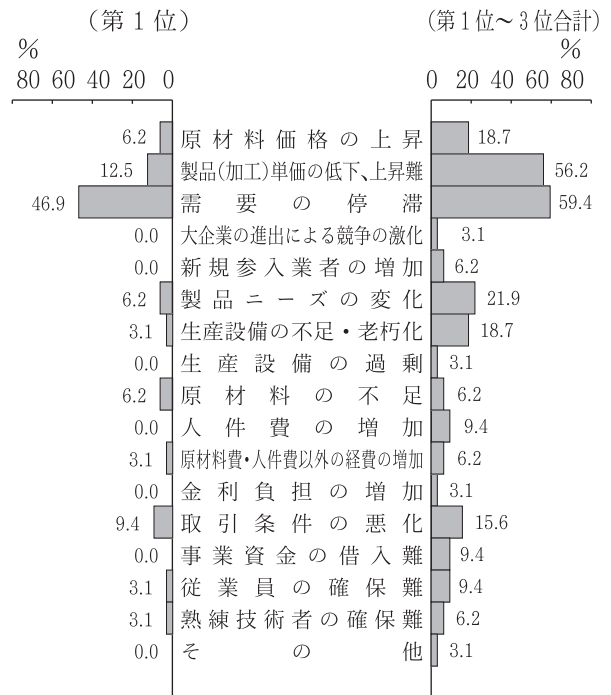


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(46.9%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(12.5%)、「取引条件の悪化」(9.4%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(59.4%(複数回答以下同じ))、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(56.2%)、「製品ニーズの変化」(21.9%)と続いている。

図1-5 経営上の問題点



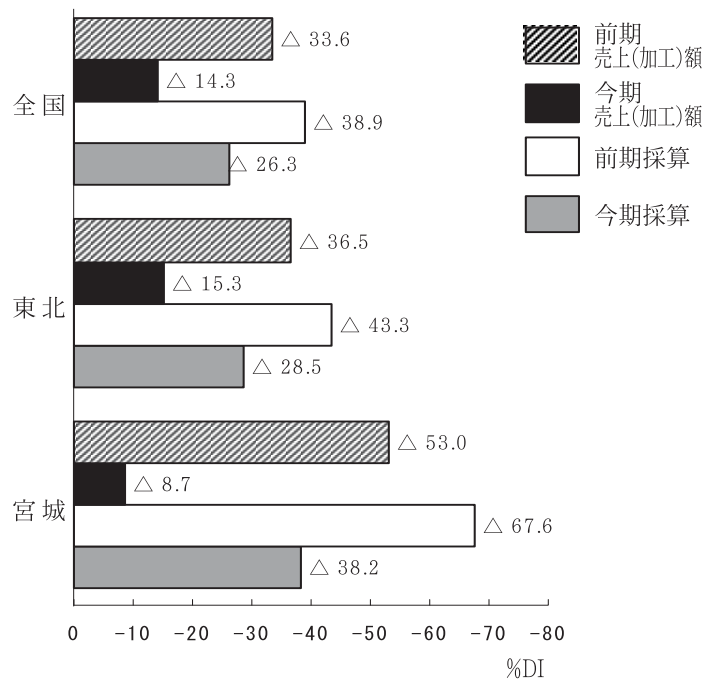
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城とも好転したが、特に宮城の好転幅が44.3ポイントと突出した数値となった。

また、採算DIにおいても同様の傾向となり、宮城においては29.4ポイント好転した。

なお、業況(自社)DIは、全国が△19.2(前期△35.4)に対し、宮城は△21.2(前期△47.1)となり、全国に近づいた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



(2) 建設業の動向

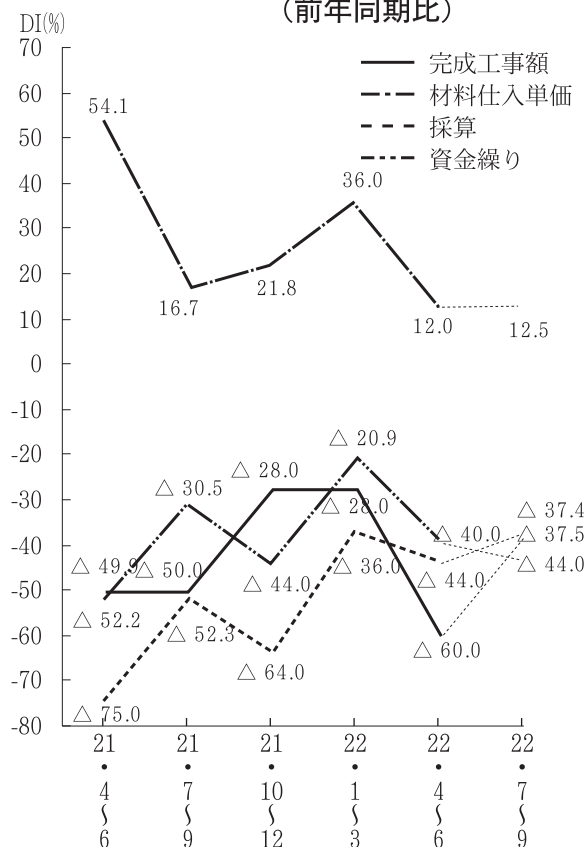
① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事額DIは、前期比 32.0 ポイント、採算DIは 8.0 ポイント、資金繰りDIは 19.1 ポイントと主要項目はいずれも悪化度合いが拡大した。

しかしながら、新規契約工事の受注額DIは全国△36.6 に対し宮城は△29.2 と好転度合いが高く、季節変動的要素と推量される。

ただし、経営上の問題点の第1位が、前回は「請負単価の低下・上昇難」であったが、今回は「民間需要の停滞」が挙げられており、予断は許されない状況である。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



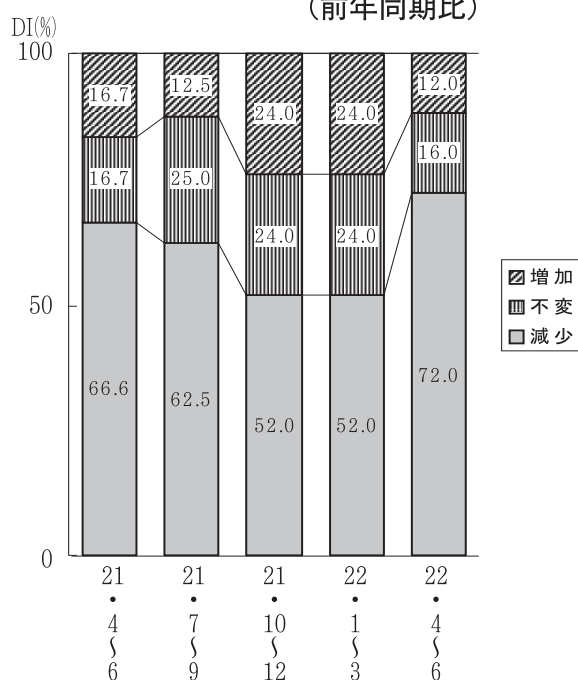
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事額

前年同期比で「上昇・好転」と回答した企業は全体の 12.0% (前期 24.0%) であり、12.0 ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は 72.0% (前期 52.0%) と 20 ポイント増加した。

その結果、完成工事高DIは△60.0 (前期 △28.0) と 32.0 ポイント悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

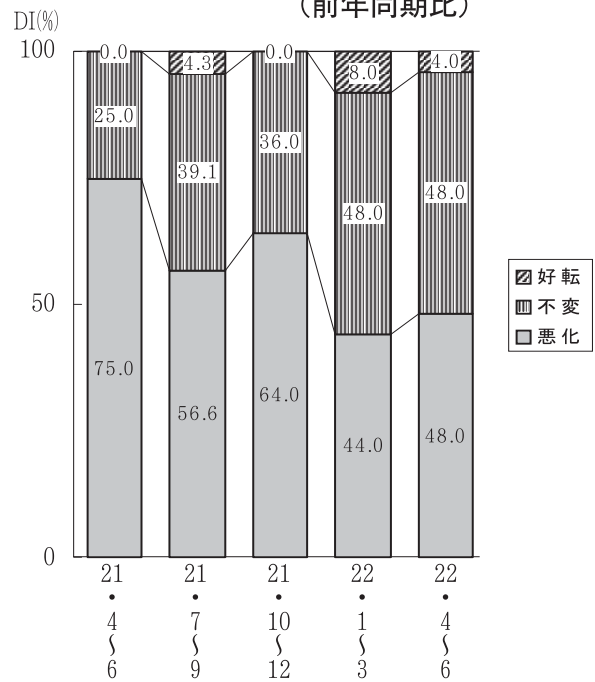


(b) 採 算

前年同期比で「上昇・好転」と回答した企業は全体の4.0%(前期8.0%)であり、「減少・悪化」と回答した企業は48.0%(前回44.0%)であり、4.0ポイント増加した。

その結果、採算DIは△44.0(前期△36.0)となり、前期比8.0ポイント悪化した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)

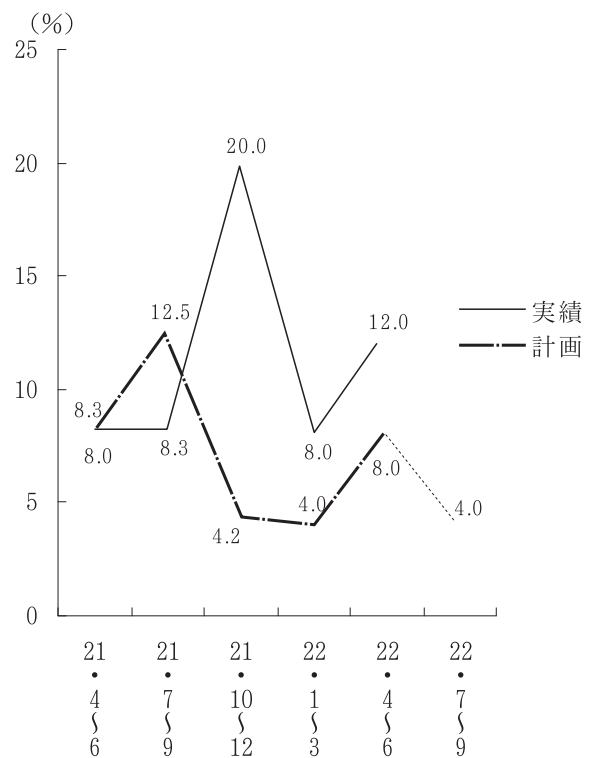


(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の12.0%で、その設備内容は、車両運搬具、建物、建設機械、OA機器であった。

来期に設備計画している企業は、全体の4.0%と依然低水準であり、その設備内容は、建物、福利厚生施設を計画している。

図2-4 設備投資の状況



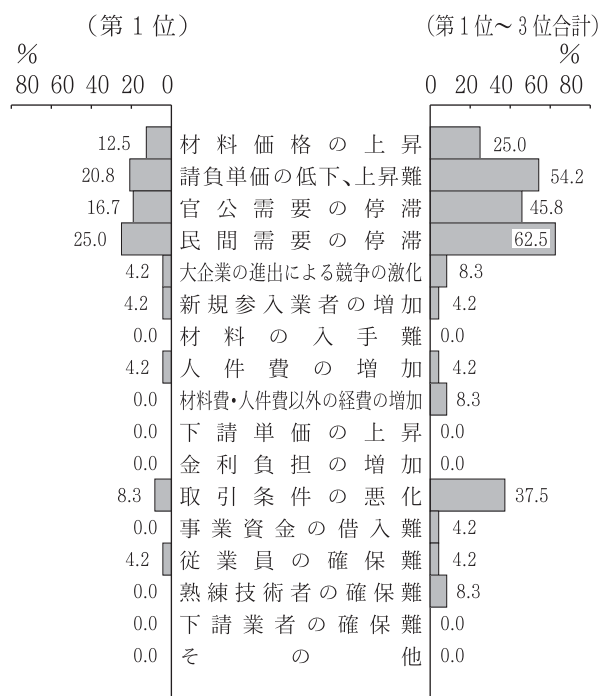
(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「民間需要の停滞」(25.0%)、次いで「請負単価の低下・上昇難」(20.8%)、次いで「官公需要の停滞」(16.7%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」(62.5% (複数回答以下同じ))、「請負単価の低下・上昇難」(54.2%)、「官公需要の停滞」(45.8%)と続いた。

依然として、民間需要、官公需要といった「需要問題」が主体であり、問題点として大きな比重を占めている。

図2-5 経営上の問題点

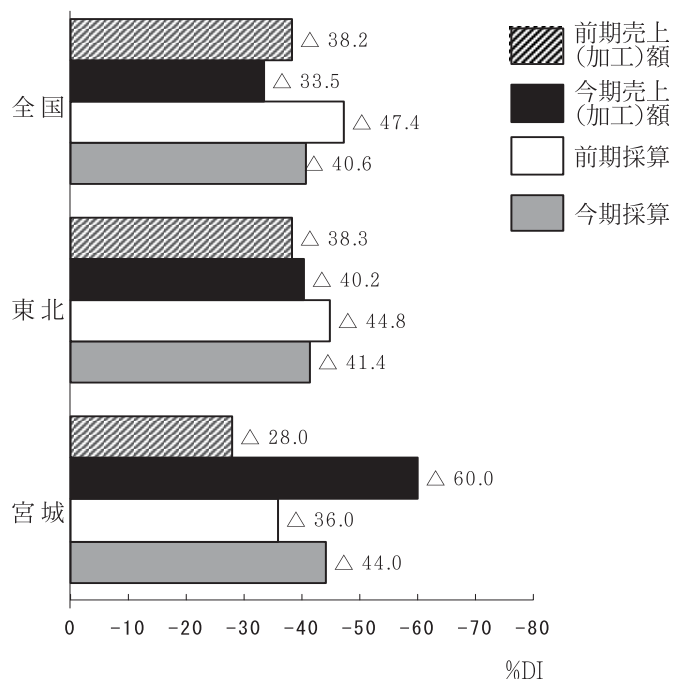


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額(完成工事額)DIは、全国は改善傾向に推移しているが、東北はやや悪化、宮城は32.0ポイントと大きく悪化した。

採算は、前回宮城のDIが最も改善度合いが高く東北、全国と続いたが、今回は逆転し、宮城の採算DIが最も低くなった。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



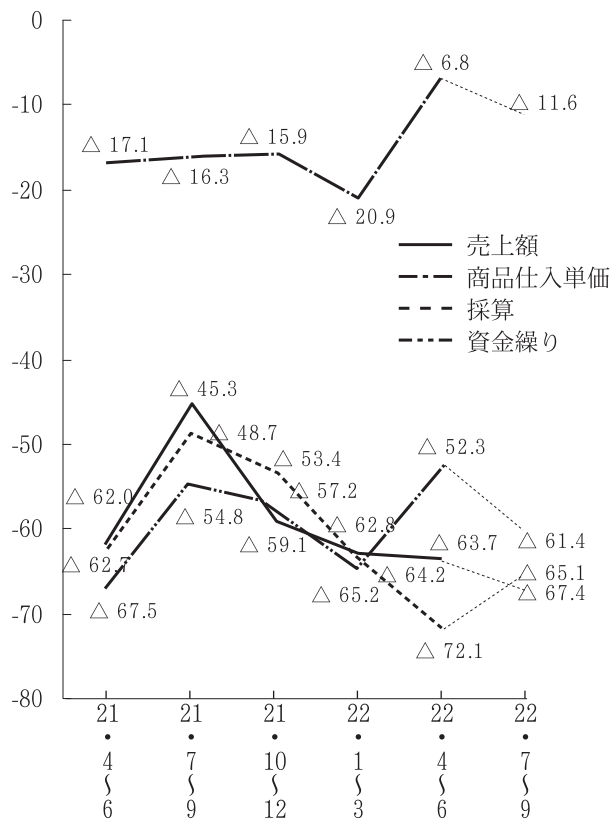
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

商品仕入単価D Iは前期比 14.1 ポイント、資金繰りD Iも 12.9 ポイント好転したが、売上額D Iは、前期比 0.9 ポイント、採算D Iは 7.9 ポイント悪化幅が拡大した。

全国、東北と比較すると、全国、東北は回復基調を示しているにもかかわらず、宮城は足踏み状態から脱皮できず、依然として景況感は厳しいものとなっている。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



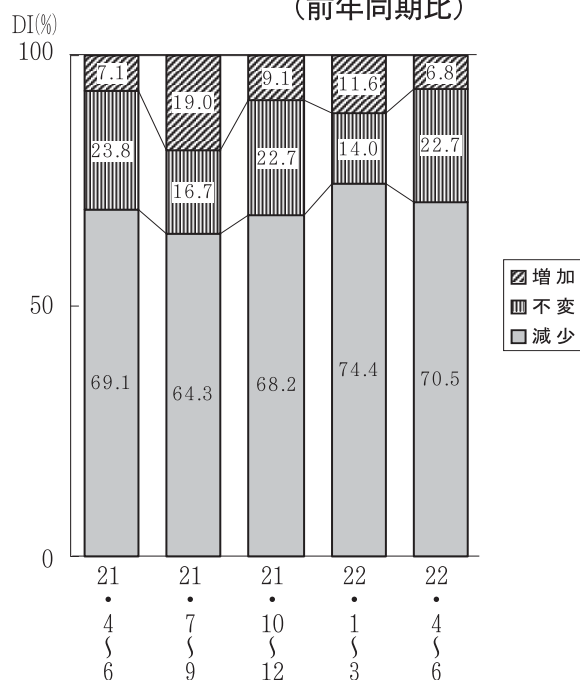
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

前年同期比で「上昇・好転」と回答した企業は全体の 6.8% (前期 11.6%) と 4.8 ポイント減少し、「減少・悪化」の回答も全体の 70.5% (前期 74.4%) と 3.9 ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△63.7(前期△62.8)と前期比 0.9 ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

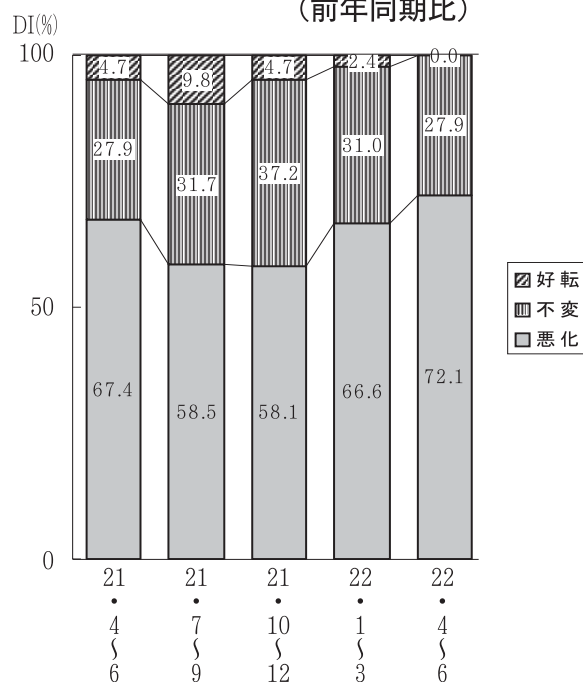


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業はなく、前期比 2.4 ポイント減少し、「悪化・低下」の回答は全体の 72.1%(前期△66.6%)で前期比 5.5 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は、△72.1(前期△64.2)となり、前期比 7.9 ポイント悪化した。

図 3 - 3 採算の状況
(前年同期比)

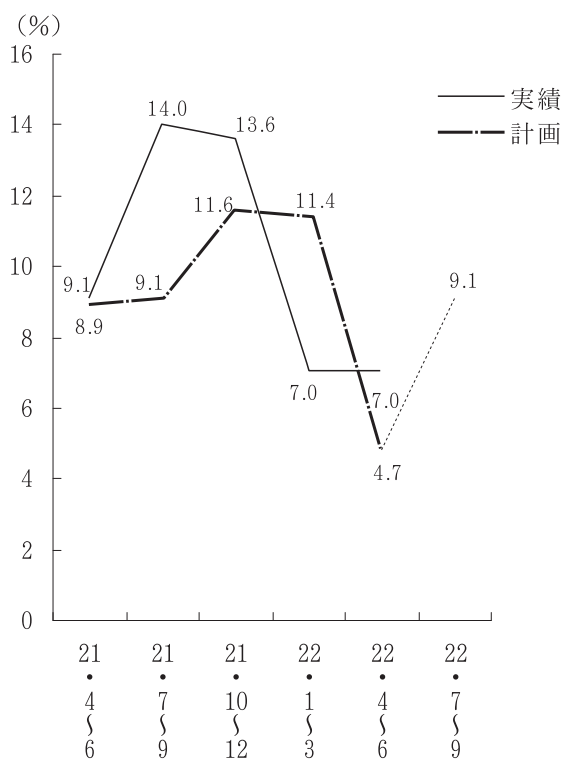


(c) 設 備 投 資

今期の投資実施企業割合は、前期同様全体の 7.0%であった。その内容は、店舗、販売設備、車両運搬具である。

来期に設備計画している企業は 9.1%で、その内容は、店舗、車両運搬具、OA機器を想定している。

図 3 - 4 設備投資の状況

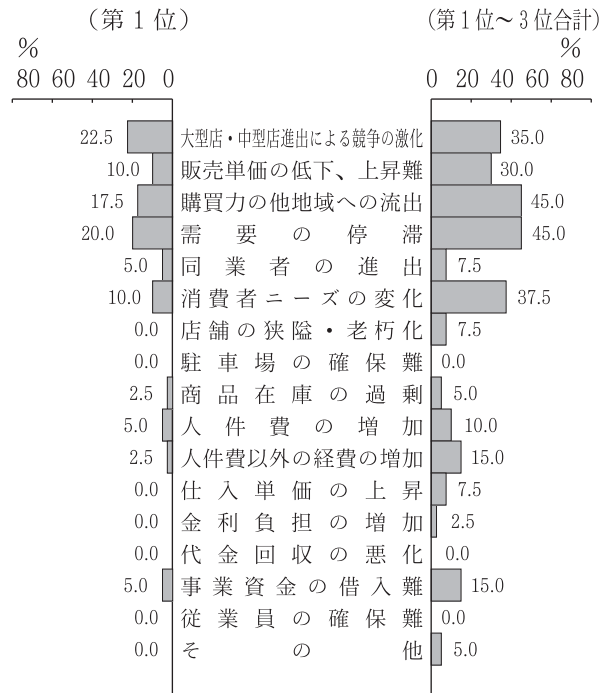


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(22.5%)、次いで「需要の停滞」(20.0%)と「購買力の他地域への流出」(17.5%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「需要の停滞」と「購買力の他地域への流出」が同率の45.0%(複数回答以下同じ)となり、以下「消費者ニーズの変化」(37.5%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(35.0%)と続いている。

図3-5 経営上の問題点

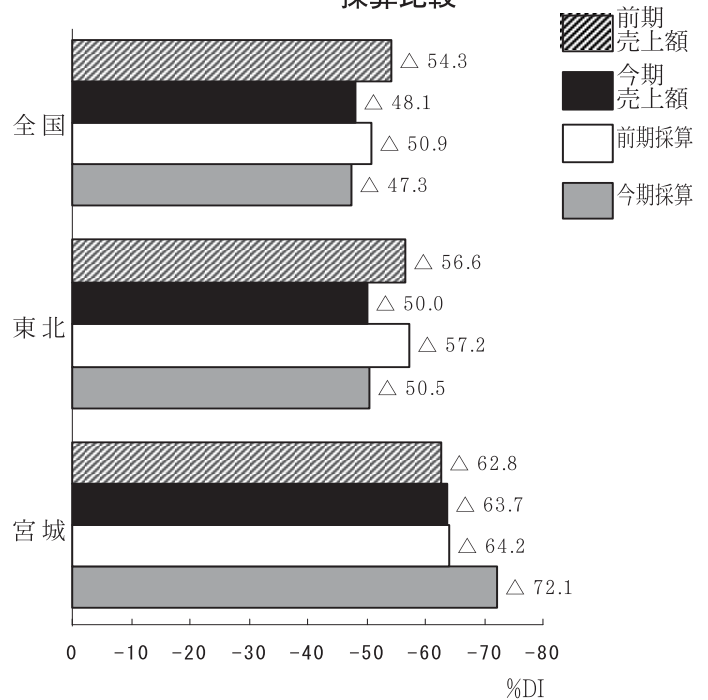


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、東北が回復基調にありマイナス幅を縮小したが、宮城は前期比△0.9ポイントと若干ながら悪化した。

採算については、全国、東北が回復基調にあるものの、宮城は7.9ポイント悪化させ、全国との乖離も24.8ポイントに悪化した。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



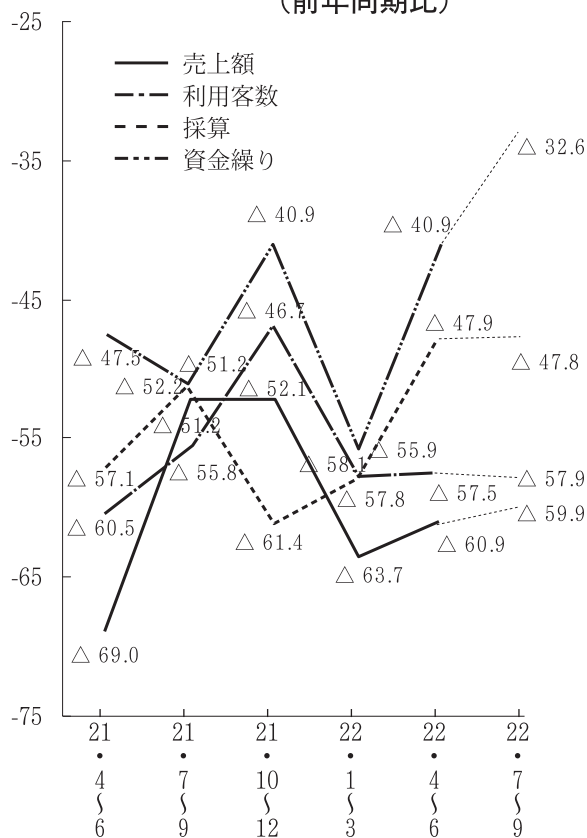
(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは前期比 2.8 ポイント、利用客数D Iは 0.6 ポイント、採算D Iは 9.9 ポイント、資金繰りD Iは 15.0 ポイントといずれも好転した。

しかしながら、全国のD Iと比較すると、売上高D I (全国△40.8、宮城△60.9)、利用客数D I (全国△40.8、宮城△57.5)と乖離幅が大きく、宮城は全国と対比すると依然として足踏み状態となっている。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



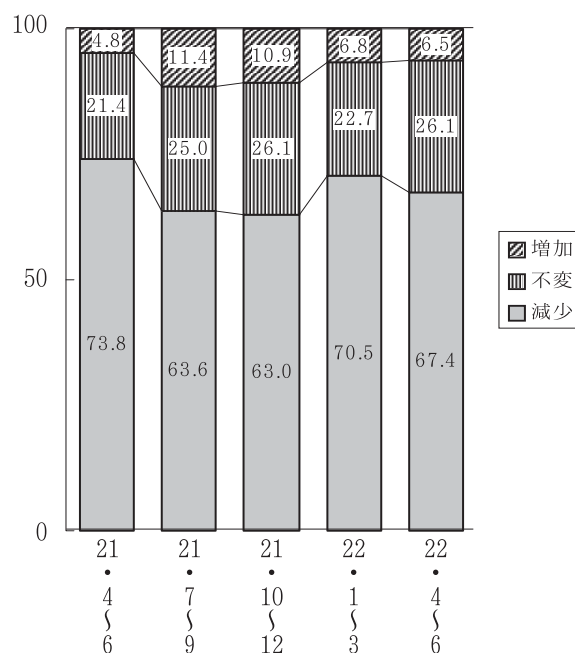
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

前年同期比で「上昇・好転」と回答した企業は全体の6.5%(前回6.8%)で0.3ポイント減少したが、「減少・悪化」の回答も67.4%(前回70.5%)で、3.1ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△60.9(前回△63.7)でマイナス幅が前期比 2.8 ポイント好転した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

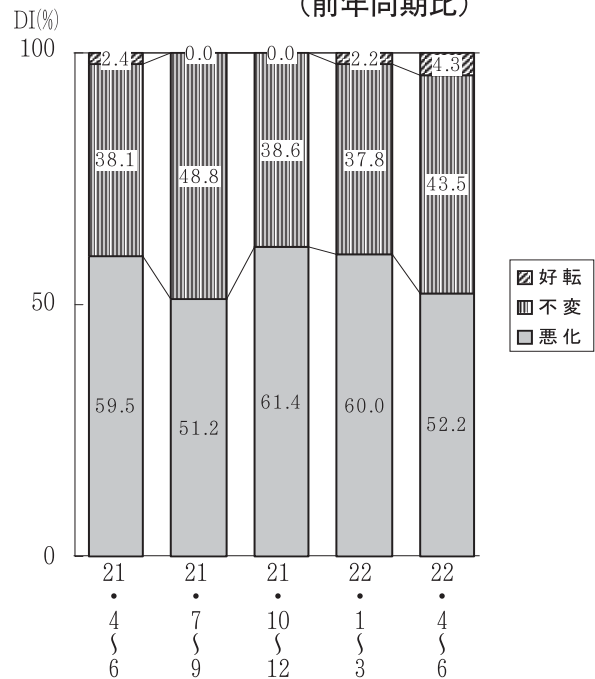


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は 4.3% (前回 2.2%) で 2.1 ポイント増加し、「低下・悪化」と回答した企業は 52.2% (前回 60.0%) と、7.8 ポイント減少した。

その結果、採算DIは△47.9(前回 57.8) となり、前期比 9.9 ポイント好転した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



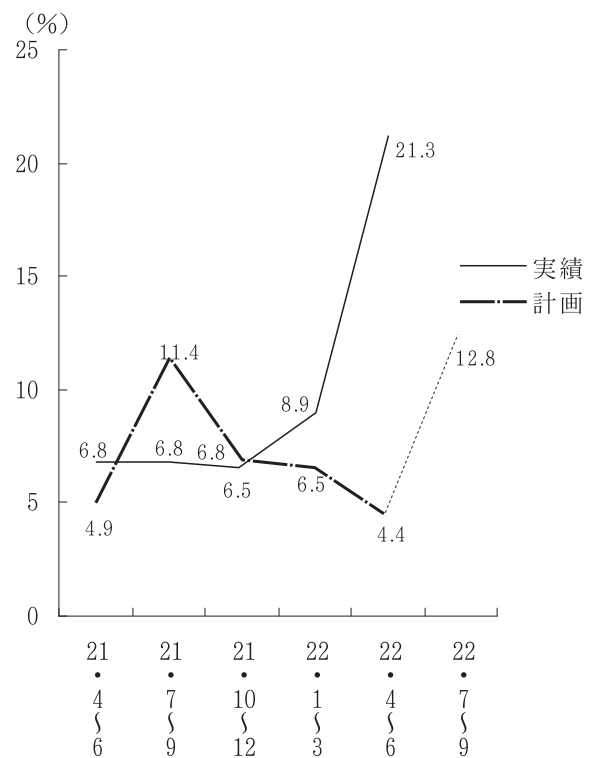
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の 21.3% (前期 8.9%) であった。

その設備内容は、サービス、付帯施設、車両運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、12.8%であり、その内容も、建物、サービス、車両・運搬具、付帯設備、OA機器となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況

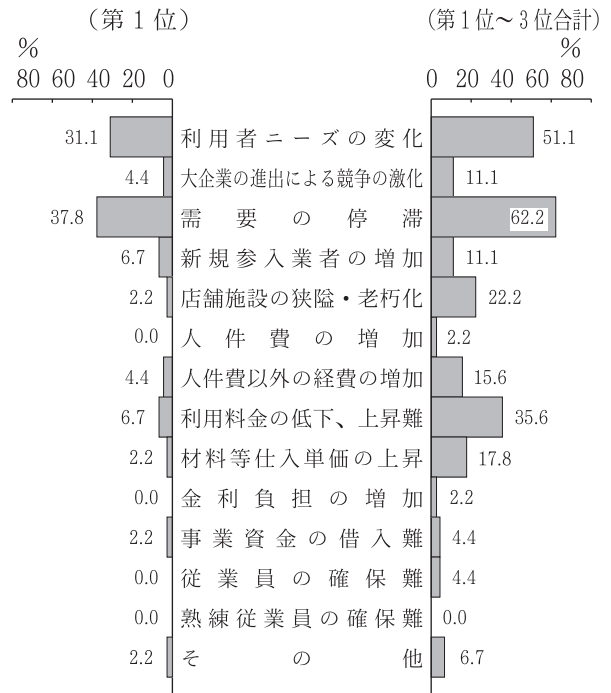


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(37.8%)、「利用者ニーズの変化」(31.1%)、「利用料金の低下・上昇難」と「新規参入業者の増加」が6.7%と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(62.2%(複数回答以下同じ))、「利用者ニーズの変化」(51.1%)「利用料金の低下・上昇難」(35.6%)、の順となっている。

図4-5 経営上の問題点

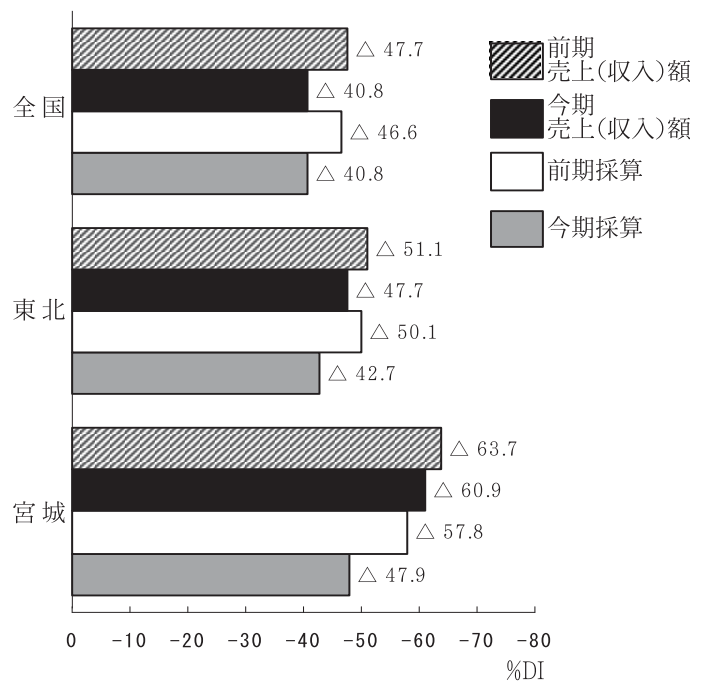


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額D Iは、全国、東北、宮城いずれも回復傾向を示しているが、全国と宮城を比較すると△20.1ポイント(前回△16.0ポイント)の乖離がみられ格差が広がった。

採算D Iも、全国、東北、宮城ともに回復傾向を示しており、全国との乖離幅は△7.1ポイント(前回△11.2ポイント)と格差は縮小した。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています